めいろうこどもえん　２月園だより

２０２２年度　年主題〈つながって～今、わたしを生きる～〉

0･1･2歳児２月主題　「いっしょに」

月のねがい

◎保育者と一緒に祈ろうとする(0)
◎友だちの存在を身近に感じ関わり合う(0)
◎外気に触れながら冬から春に向かう自然の中で身体を動かす(0)
◎自分から神さまに祈ろうとする。(1.2)
◎全身を使ったり、手指を十分に使って遊ぶ(1.2)
◎保育者や友だちにも思いがあることに気づく(1.2)

3･4･5歳児２月主題　「響きあって」

月のねがい

◎喜びをもって礼拝を守り、自分から賛美や祈りをしようとする姿が見られる（3）
◎子ども同士のつながりが出てくる。遊びを通して心を響かせ合う経験をする（3）
◎庭の木々の芽の変化や鳥の声に気づき、保育者や友だち一緒に季節の移り変わりを感じる（3）
◎神さまは一人ひとりに違う賜物をくださっていることを認め合い、それを受け止め共に過ごせるようにと祈り合う(4.5)◎友だちとの交わりや取り組みがおもしろく、また明日ねという期待が続く（4.5）
◎寒さの中にも春が訪れていることを五感で感じる（4.5）

今月の聖句　「平和をつくる者は幸いです」　マタイ福音書5:9

私たちが生きている時代は、改めて平和が問われる時代となってしまいました。昨年２月にロシアによるウクライナ侵攻が起こり、もうすぐ１年になりますが、収まる気配はありません。日本も近隣諸国との関係を見直し、防衛費を増額することがすんなりと決まりました。けれども、首相が唱えた「異次元の少子化対策」はいまだに具体策も見えず、もたついています。

「平和をつくる者は幸いです」と聖書は語ります。けれども、私たちは、己だけの平和を守るために、他者との平和の関係をこわしていくような存在です。そこに、人の犯す罪があります。私たちは、自分を守るために、自分の利益のために人を犠牲にする。人を恐れるから、自分が傷つけられる前におとしめてやろうとする。そういう風にして私たちは、己だけの平和を守るために、他者との平和の関係を壊していくのです。それは人間が集まるところでは、いつも必ず繰り返されることです。その典型がいじめでしょう。いじめのない世界など、どこにもありません。平和という完全な状態は、この地上のどこにもない。人はいつも、それを壊すように動くことしかできない生き物です。人間が罪人であるとはそういうことです。根源的なところで、自分ではない者を愛せない存在なのです。そのことを、イエスさまは誰よりも良く知っておられます。イエスさまは人間を良く知っておられます。 私たちが罪人であることをよく知っておられます。知った上で、自ら平和を実現するために歩み寄って下さったのです。それが主イエス・キリストの十字架による平和の実現であったのです。

協力牧師　池田基宣

２月の行事予定

2日（木）	卒園写真撮影
7日（火）	冬の一日遠足　**※弁当日**
9日（木）	２月誕生会
13日（月）	試走（予備日14日）
18日（土）	持久走大会
20日（月）	持久走大会予備日
27日（月）	参観日（たんぽぽ・こすもす）
28日（火）	参観日（あじさい・すみれ）

３月の行事予定

2日（木）	お別れ会・バイキング
3日（金）	３月誕生会
〃	監査・役員会（13:00~）
7日（火）	絵本の会ラスト公演
11日（土）	卒園式
17日（金）	修了式（1号午前保育）
30・31日	新学期準備のため休園

持久走大会

お別れ遠足

豆まき

保育参観

心の育ちに目を向ける

週末には立春を迎えますが、寒さはしばらくは続くようですね。川沿いの河津桜もポツポツと花を付け始め、夏みかんももうすぐ食べ頃に熟しているようです。昨年度は延期せざるを得なかったおゆうぎ会も無事に終えることができ、まことに感謝です。皆さまありがとうございました。

年明け早々、岸田総理が発した「異次元の少子化対策」なるスローガンを聞いて、頭を捻った保育関係者は多かったことでしょう。私もとっさに「えっ、今頃ですか？」と反応してしまいました。昨年の出生数は八十万人を割り込んで過去最少の七十七万人台を記録する見通しとなり、八十年代の約半分の水準に落ち込むなど深刻なものとなっています。遅きに失したとしても、さすがに政治的に動かざるを得ない状況かと思います。基本的な方向として、①児童手当を中心にした経済的な支援の強化、②学童保育等も含めた幼児教育や保育サービスの量と質の強化、③働き方改革の推進とそれを支える制度の充実に挑戦するとのこと。①は財源の確保次第ですぐにでも可能ですが、②は人材確保の困難な現状があり、③は社会全体での理解を高めていかなければ、絵に描いた餅となってしまいます。結婚や妊娠の選択はあくまで個人の自由ですので、触れるつもりはありませんが、欲しくても様々な理由でそれが叶わない方への支援は厚くしていただきたいものです。

今学期も実質、残りひと月余りになりました。あらゆる経験を経て育まれたお子さんの成長の跡を実感されていることでしょう。ただ、目に見える発達だけではなく、「心の育ち」に目を向けることも大切なことだと思います。発達心理学者の鯨岡峻先生によると、『「育てる」という営みの背後には、常に子どもに対する大人の思い（心）があります。それが子どもの育ちに深く関わってきます。つまり、「育てる」という営みは、あれをしてやる、これをさせると考える前に、子どもを小さくても一人の人間として尊重し、大事に思うことが最初に来るのでなければなりません。その上で、子どもの思いを受け止め、その訴えに耳を貸し、…子どもが周囲の人のすることを学び取って成長していくように導くことが必要になってきます。』と著書にあります。保育者も保護者も、行動面での「あるべき発達の姿」に向かいがちです。しかし、実際の保育の場では、元気がない、自信が持てない、不安である、落ち着かないといった、子どもの心の問題こそ深刻なかたちで浮かび上がってきます。様々な要因が影響を及ぼしているのでしょうが、まずはその子がどんな世界に生きているのか、心の中にはどのような感情や観念が存在しているのかを探ることです。彼らの心の育ちに寄り添うことが、「共に生きる」者となれるのだと思っています。

次第に日差しや肌に触れる風が、心地よくなってくるでしょう。おゆうぎ会が終わると、全部の演目をみんなで一緒に表現して楽しみます。小さい子どもたちが、他の表現の動きをよく覚えていることにいつも驚かされます。この主体的で自由な活動を導くためにおゆうぎ会があると言っても過言ではないでしょう。残り少ない三学期を思う存分楽しんでいきます。

学園長

みどりのおうちは、毎日大賑わい!!

今年は種子島にも数年ぶりに雪が降り、とても冬らしい1月でしたね！子どもたちも初めて見る雪に「白いね～」「なんか雨みたい！」「フワフワ～」と窓から食い入るように眺め、目をキラキラさせていました。雪が降るとなんだかワクワクしながら一緒に眺めることでした。

3学期になり、日に日に一緒に遊べる友だちが増えてきた子どもたち。1学期は気の合う友だちと2、3人で砂場遊びをしていた2歳児でしたが、最近、園庭の『みどりのおうち』からとっても賑やかな声が聞こえてきます。覗いてみると、7、8人で一緒におうちごっこをしていました。中には1歳児の姿も！「今ごはん作ってるからね～、デザートもあるよ！」「お姉ちゃんだから宿題しなくちゃ」「お仕事いってきま～す」と、まるで大家族のようです(笑)。きっとそれぞれ家庭でお父さん、お母さん、お兄ちゃんなど、家族の様子をよ～く見ているんだなと感じることでした。ある日は誕生会ごっこ、またある日は避難訓練ごっこなど、毎日とてもにぎやかです。言葉でのやりとりもどんどん増えて、冗談を言って笑い合ったり、友だちと遊ぶことが楽しくなってきたようです。互いにイメージを共有しながらごっこ遊びがを広がっていき、遊び方が変わってきたなぁと感じました。

1月は大きな行事のひとつのお遊戯会がありましたね。登園自粛もあり練習も少ししかできない中でしたが、短時間でもグッと集中して、動きをよく覚えていてびっくりでした。特に指先まで意識してお遊戯する年長の姿に目がウルウル、もうすぐ1年生になるんだな～と実感が湧くことでした。

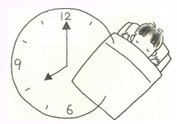
今年度も残すところ2か月、進級・進学が近づき楽しみと不安の子どもたちだと思います。以前参加した小学校との接続の研修である校長先生が、生活リズムをしっかり整えて、そして何より小学校が楽しみな気持ちをもてるようにしてくださいと言われていたのが印象的でした。ついつい「〇〇しないと小学生になれないよ！」と言ってしまいがちですが、楽しみや期待がもてるように関わっていけたらと思います。今年度残り少ない日々をいっぱい遊ぼうね！　大河

生活リズムの確立《子どもの睡眠》

夜、寝床に入って、２分ないし５分くらいの間に眠る子どもが、寝つきのよい子どもといわれ元気が良く育ちもいいと考えられます。

1．眠る前は穏やかな気持ちにします。口うるさい叱責や督促･督励はストレスとなり情緒の安定を欠きます。また就寝前にはテレビやゲームなども止めます。
2．湯上り、または就寝前に冷水を少し飲ませます。「飲みなさい！」と命令ではなく、「水を少し飲んで寝ようか！」と共感を持たせるようにします。
3．寝床に入ると同時に寝室の明かりを消し、「おやすみなさい」のあいさつと同時に暗くします。
4．昼間、よく遊び（活動し）よく笑い合う楽しさを持った子どもが、寝付きが良くなります。
5．良い眠りをするためには、幼児はできるだけ早寝（午後７時半～８時半）をする習慣を持つようにします。
6．早寝をすると深い眠りが早くできるので、朝は目覚めもよく、体も心も健康に育ち易くなります。

睡眠のリズムが
確立してくると・・・



・朝起きたときの機嫌がよくなった
・落ち着いてきた
・表情が明るくなった
・度々発熱していたのに、熱が出なくなった。
・食事をよくとるようになった
・風邪をよく引いていたのがほとんど風邪をひかなくなった
・夜尿をしなくなった
・やたらとおやつを欲しがっていたのが、決まった時間のみになりました・・・
保護者の方から子どもの変化について語られたものです。

これらのことが早寝･早起きのみで実現したとは言いにくいところはありますが、睡眠が整うことで生活の改善がされたことは事実です。

夜の眠りは、命や育ちの基盤としてとても大切です。まだ、幼いからとか、そのうちに・・・と言っている間に、中学校に上がってからの不登校や自殺といった事態にも繋がっていくと言われています。子どもの健やかな育ちを願い、人生の土台を作る乳幼児期に、生活のリズムの確立に繋げていきたいものです。

”生活リズムの確立”より　河添邦俊著